

1. はじめに

(1) 福井市における夜間景観の重要性

- ・福井市では、美しい自然に歴史・文化が溶け込んでいる、日本の原風景が感じられる景観＝「福井らしい景観」を守るとともに、市民が誇りをもって、いつまでも住み続けたいと思うような、誰もが住んでみたいと思うような“心地よい”景観の形成を目指して、『福井市景観基本計画』を策定し、景観法に基づく『福井市景観計画』を策定しました。
- ・その中で、「夜間景観」は良好な景観を形成する構成要素の1つであると位置づけられており、福井市における夜間景観の重要性は以下のように整理されます。

① なぜ、今、夜間景観に取り組むのか

- ・近年、福井市内においてライトアップにより演出された建築物や、イルミネーションを用いた市民活動など、夜間の景観を良好に演出する取り組みが見られるようになり、市民の夜間の景観に対する意識も高まりつつあります。
- ・また、福井都心地区（※福井市景観基本計画に定める景観形成重点地区の区域。以下同じ。）内のＪＲ福井駅周辺や浜町界限などにおいては、公共空間や建築物等を含めた様々な整備が進みつつあり、それらによって生まれる新しい「光」が、既往のまちなみに今まではない変化を与えようとしています。
- ・これらの新しい「光」を計画的に誘導することで、望ましい「光」の在り方を実現することができるチャンスが今まさにあり、そのための方策を追求すべき時期にきていると言えます。

② 魅力ある夜間景観による効果

- ・魅力ある夜間景観は、福井市の魅力を高め、商業活性化や観光振興などのまちづくりを進めるとともに、全国にアピールしていく上で重要な側面の1つです。
- ・魅力ある夜間景観を創出することで、市民・来訪者の夜間の外出機会や福井市への滞在時間を増やすことができ、また、何度も訪れたいと思う気持ちにさせるなど、福井市全体の総合的な活性化が期待されます。
- ・特に福井都心地区は、もっとも福井らしさを実感できる場所であり、中でも、県都福井市の玄関口であるＪＲ福井駅周辺を含む中心市街地では、中心市街地活性化を進める上でも昼間とは違った魅力ある空間を演出することが必要です。
- ・このほか、夜間における光は、市民が安全で安心して暮らせる環境を創出する上でも重要な役割を担っています。
- ・また、魅力ある夜間景観は、道路や公共施設などの公共空間の光だけで生み出されるものではなく、住宅や店舗などの私的空間の光も重要となります。夜間景観を良くすることは、市民と行政の協働によるまちづくりの一貫であり、市民が主体的に取り組む総合的な地域づくりに欠かせない要素となっています。

《福井市における良好な景観形成の重要性》

(福井市景観基本計画より)

- 美しい水と緑と大地、悠久の歴史を未来へ受け継ぐ
- 世界に誇れる魅力を発信する
- 景観づくりは総合的な地域づくり

夜間景観の観点

【全国的な背景】

《市民ニーズの変化》

- ・量の豊かさから質の豊かさへと変化
- ・スポット的に楽しむ観光から地域の雰囲気全体を楽しむ観光へと変化

《夜間の外出機会の増大》

- ・余暇時間の増大、24時間化した生活スタイルや都市活動、健康志向などによる夜間の外出機会の増大

《都市間競争の激化》

- ・交通網の充実により生活圏や観光・交流圏が拡大し、都市の吸引力を高めるためには新たな魅力づくりが必要
- ・インターネット等の普及により全国どこにいても都市の情報が入手可能となり、都市の魅力をPRすることが必要

《照明技術の向上》

- ・LED等の新技術の開発・普及により多様な演出の仕方が可能

【福井市における背景】

《福井市景観基本計画》

- ・景観形成の方針の1つに「魅力ある夜間景観の創出」を掲げている

《福井市景観計画》

- ・景観形成基準の1つにショーウィンドー等からの光の活用を推奨している
- ・建築物等の外観に対して行う照明を特定照明として届出行為としている

《市民意識の高まり》

- ・ライトアップやイルミネーション等の自主的な取り組みが見られる

《県都の玄関口》

- ・新しく整備されたJR福井駅
- ・北陸新幹線の整備により交流圏の拡大(交流人口の増大)が一層期待される

《県都の顔づくり、中心市街地活性化》

- ・行政、商業、文化、交流機能等の集積地であり、多くの人が集まる場所
- ・福井市のまちづくり施策の大きな柱

《景観形成を重点的に進めるべき地区》

- ・福井都心地区(景観基本計画、景観計画)

【福井市における夜間景観の重要性】

- ◎光を良好にコントロールし、市民・来訪者の夜間の外出機会や滞在時間を増やし、何度も訪れたいと思えるような魅力ある夜間景観を形成することが必要
- ◎特に、都市機能や景観資源が集積する福井都心地区は、もっとも福井らしさを実感できる場所として、夜間においてより魅力が増すような光の整備・演出が必要

(2) 夜間景観ガイドラインの目的、位置づけ

① 夜間景観ガイドラインの目的

○福井の個性を活かした夜間の魅力創出のあり方を示す

- ・福井らしい景観を守り、世界に誇れる美しい福井を創造するためには、福井固有の自然や歴史資源を保全・活用するとともに、道路・公園等の公共空間や建築物等を景観資源として良好にデザインすることが必要です。
- ・これらの景観資源は、夜間における福井市の魅力を創出する上で欠かすことのできない重要な要素であり、積極的かつ適正に活用していくことが重要です。
- ・この中で、道路や建築物等が集積する「街空間」における日常的な光が特に重要となるとともに、祝祭性やハレなど非日常的な光も重要となります。
- ・本ガイドラインは、福井固有の景観資源を活かしながらより魅力的な夜間景観の創出を図るため、夜間景観の形成に関する基本的な方針や考え方を示すとともに、日常・非日常を含めた光の整備・演出のあり方を示すことを目的とします。

○市民が快適に暮らせるための夜間の光のあり方を示す

- ・魅力ある夜間景観は、景観資源にだけ光を当てて構成されるのではなく、地域全体の雰囲気と一体となって構成されるものです。
- ・地域全体としての雰囲気を楽しむ夜間景観の構成を考えたとき、その中心となるのは「人」であり、人の視線に配慮した光の配置、歩いて楽しむ環境づくりが重要となります。
- ・一方、夜間景観の整備・演出は、福井を対外的にアピールして人を集めることだけが目的ではなく、光を適正に誘導し、夜間も安全で快適に暮らせる環境を創出することが前提となります。
- ・本ガイドラインは、安全で快適、楽しみながら歩ける歩行者空間を形成するとともに、地域全体の夜間の快適性を高めるための光の創出のあり方を示すことを目的とします。

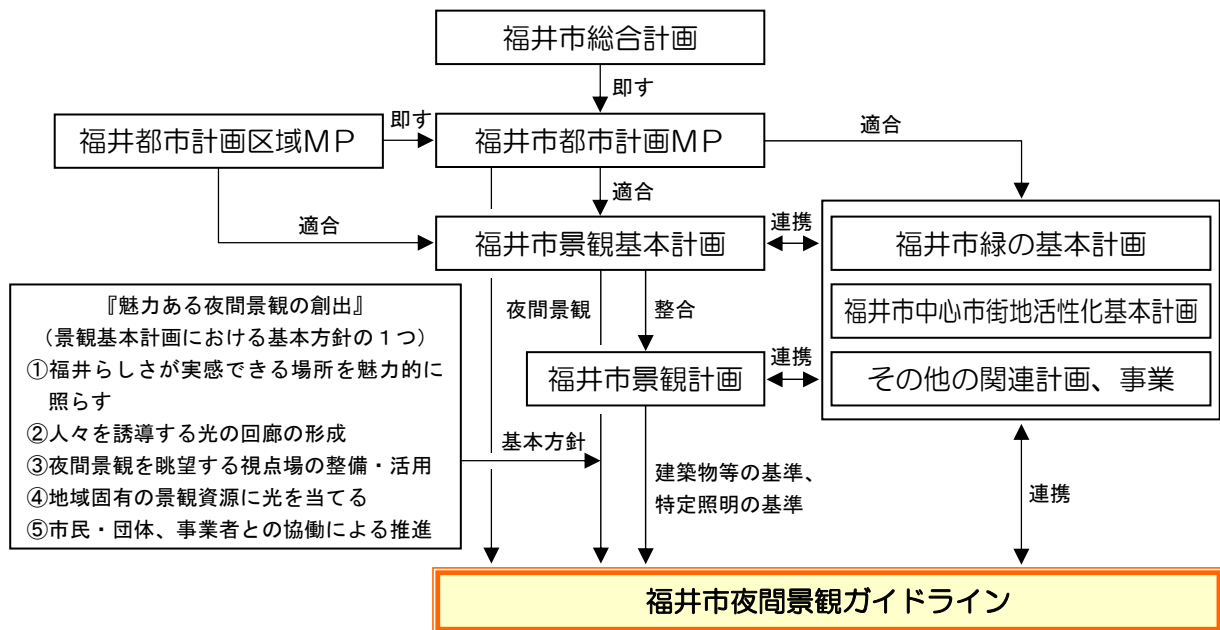
○住環境及び自然環境にやさしい光のあり方を示す

- ・魅力ある夜間景観とは、ただ明るく照らせばいいという訳ではありません。特に近年では、屋外照明の不適切あるいは過剰な使用によって、生態系への悪影響、住環境の悪化や交通環境への障害などといった「光害（ひかりがい）」が問題となっています。
- ・また、照明計画を立てる際には、地球温暖化対策や省エネルギー対策などにも十分に配慮することが必要です。
- ・本ガイドラインは、光害の防止や自然環境への負荷の軽減を図るため、環境にやさしい適切な光のあり方を示すことを目的とします。

② 夜間景観ガイドラインの位置づけ

- ・魅力ある夜間景観の形成は、福井市景観基本計画が目標とする「四季彩織りなす風景都市～住みたくなる心地よい景観をめざして～」を実現するための重要な取り組みの1つであり、景観形成方針において「魅力ある夜間景観の創出」を掲げています。
- ・また、福井市景観計画では、建築物の景観形成基準の1つとして窓等開口部からの光を活かすデザインを推奨しているとともに、建築物等の形態・意匠を演出するためにその外観に対して行われる照明を「特定照明」として届出行為とするなど、魅力ある夜間景観の創出を図っています。
- ・さらに、魅力ある夜間景観の形成は、商業や観光の振興、来訪者の増加や回遊性の創出などの中心市街地活性化策、市民との協働によるまちづくりなど、上位関連計画や各種まちづくり施策を実現する上でも重要な要素の1つです。
- ・このほか、地域活力の向上や福井市全体の活性化を図るためには、地域固有の景観資源に光を当てることが重要であり、さらに、安全性や快適性など地域環境の向上にも配慮することが必要です。
- ・本ガイドラインは、上位・関連計画に掲げられた施策や事業を実現する際の夜間景観に関する配慮事項として、主に以下の3点を示します。

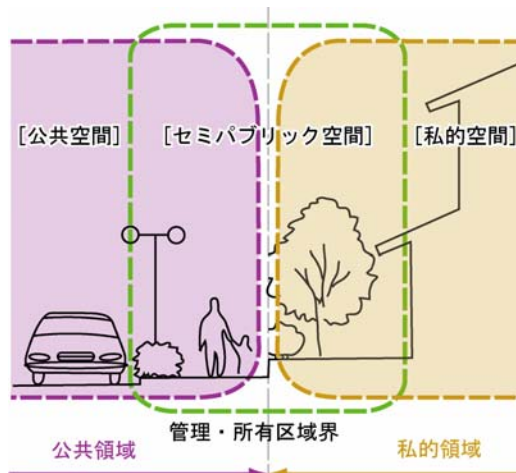
- 各種事業を推進する上で、夜間景観に対して配慮すべき基本的事項
- 夜間景観の整備・演出が特に重要な場所、整備方針や望ましい整備・演出方法等
- 市民や事業者との協働による夜間景観づくりに向けた取り組み方策



福井市夜間景観ガイドラインの位置づけ

③ 夜間景観ガイドラインとして検討する範囲

- ・本ガイドラインは、福井の魅力や賑わいを光によって向上・創出するとともに、地域の夜間環境の改善、市民との協働による取り組みを進めるため、福井市全域を対象とします。
- ・また、夜間景観を構成する領域は、「公共空間」と「私的空間」に大きく分けられ、さらに、両空間にまたがる領域は「セミパブリック空間」として捉えることができます。
- ・それぞれの空間領域ごとに以下のような役割や検討課題があり、本ガイドラインは、福井市の夜間の魅力や快適性を総合的に高めるため、全ての空間領域を検討の対象とします。



福井市夜間景観ガイドラインの検討範囲

構成領域	主な役割・検討課題
公共空間	<ul style="list-style-type: none"> ・道路や公園、河川など夜間景観の骨格を構成する重要な空間です。 ・夜間景観の連続性や回遊性、テーマ性や界限性の創出、歩行者や自動車、地域生活の安全性を確保するための光のあり方を検討するとともに、市民や事業者の取り組みに対する先導役としても光を良好にデザインすることが重要です。
私的空間	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や事業者または公共団体などが所有する敷地内での建築物等は、まち全体の夜間景観を形成する上でも重要な空間です。 ・道路等の公共空間と一体となって夜間景観を形成するというよりは、店舗・事業所等の名称やデザインを主張するための光、あるいは、イルミネーションなどにより個人的に楽しむ光が中心となります。 ・また、地域における夜間の安全性や快適性を確保するためには、門灯などの私的空間における光も重要となります。
セミパブリック空間	<ul style="list-style-type: none"> ・官民境界線を中心として、ライトアップやイルミネーションなど市民、事業者と行政が協働で取り組む場所、又は、ショーウィンドーなど私的空間のうち夜間景観に対して大きな影響を与える空間です。 ・単に自己を主張する光ではなく、公共空間と一体となって魅力ある夜間景観を創出するための光のあり方を検討することが必要です。 ・特に、多くの人が集まる「福井都心地区」においては、セミパブリック空間の光を良好に誘導することが重要となります。